

# 第1回 国際協力プロフェッショナル検定 + 検定試験対策Webコース 合格者の声

① 圓明 沢真様 (20代、民間企業)

**Q.国際協力に関心を持たれたきっかけや、本検定試験を受験された動機はどのようなものだったのでしょうか？**

国際協力に関心を持ったのは、大学時代インドネシアでの土木作業に関するボランティアの経験で感じた、「恵まれている人と、恵まれていない人の生活の格差をみて何もしない自分にはなりたくない」という思いが原体験になっています。

大学卒業後の現在は、ITエンジニアとしてIT基盤システムを構築する実務経験を積んでいるところですが、ゆくゆくはIT分野を軸にして国際協力に関わるキャリア形成を目指して、関連イベントや研修、コミュニティ等にも積極的に参加しています。

「国際協力キャリアフェア」に参加していたパデコのブースを訪問し、国際協力分野の検定試験の立上げを知りました。PADECO Academyにメールアドレスを登録したり、パデコのホームページの最新情報をフォローをしています。本検定は、**国際協力分野での何かしらのきっかけになれば**と思い、受験をしました。今後、国際協力分野で活躍できるよう、今は知識や経験を身に着けている最中で、**将来、本当に国際協力分野の仕事ができるのか、漠然とした不安**はありますが、このような試験を受ける機会をもつことで、**モチベーションを維持する上でも役に立っている**と思います。



**圓明 沢真様**  
**(20代、民間企業)**

**Q.お仕事をされながらの試験対策は大変でしたか？またどのような内容が印象に残っていますか？**

忙しくてなかなか試験対策の時間をとるのが大変でしたが、3週間の間に日曜日に集中して時間をとり、講座の視聴、問題演習を行いました。印象に残っている講座内容ですが、**現場で活躍されているパデコの開発コンサルタントの方の生の声**を聴く動画が好きでした。どういうスキルを得て、どういった学びを得たのか、を知れたのが良かったです。また、対策講座と検定試験をセットで利用でき、両方から自分の知らない内容をカバーすることができたと思います。

検定試験では、MDGsやSDGsに関する問題が印象に残っています。元々用語自体は知っていましたが、その詳細を学びました。本試験での勉強を通じて、**国際協力に携わる者としての基本的な知識、国際協力**で活躍するための土台を得られたと思っています。

## Q.国際協力に関心を持たれたきっかけや、本検定試験を受験された動機はどのようなものだったのでしょうか？

中学高校時代をフィリピンで過ごした経験から、フィリピンの子供の教育格差に問題意識を持っており、国際協力に関心を持っていました。将来的に開発コンサルタントへの就職を目指して、**教員として実務経験を積んだ後、次のステップとして民間企業にて教育 x IT分野での専門性を積むための準備を進めています。**

ただ、開発コンサルティング業界の情報収集をしてみても思ったのが、開発コンサルティング業界が求める人物の専門分野や実務経験について調べようとしても、公開されている情報があまりありませんでした。欲しい人材像に「類似経験あり」と記載があっても、どのような類似経験があると良いのか分からず、そして相談できる人がいないのが難点でした。

また、開発分野でのネットワークや知見を増やしていくため、JICAが実施している能力強化研修にも関心はありましたが、一般的な参加条件には、「協力隊〇年以上」「開発分野の実務経験〇年以上」と記載があり、開発業界にこれから新たに入ろうとする人には受講条件に合わず、また、数日間連続して開催される能力強化研修は、社会人だと平日の数日間を休むことが現実的に難しいのでなかなか受講できませんでした。

一方で、本検定試験と対策講座は、**受講条件は無く、国際協力に関心があるかたなら誰でも受講で、最初の国際協力へのとっかかりを作ることができました。**また、対面やライブではなく、いつでも受講できるフレキシブルな形式であり、仕事と両立して継続できたと思います現在、オンラインにて修士大学院のコースを受講しているの

ですが、そのスタイルと同じなので慣れており、両方を並行して進めることができました。

## Q.本検定試験の難易度はいかがでしたか？またどのような方にお勧めしたいですか？

これから**国際協力業界に入りたい大学生、大学院生、また全く違うバックグラウンドから、この業界に入りたい社会人の方**には、国際協力の基礎的な知識を網羅的に身に着けるために適していると思います。教員の経験上、「**学びが形になるのが重要**」だと思っているのですが、検定試験と試験対策webコースがセットになっており、身に着けた知識を**合格証として形に残す**ことができた点が良かったと思います。



伊藤 有 様  
(30代、教員)

**Q. 総合商社、ジェトロでご活躍後、現在は中小企業診断士として、JICAの民間連携事業等、中小企業の海外展開支援をされていると伺いました。本Webコース・検定試験を受験された動機はどのようなものだったのでしょうか？**

商社時代に、インドネシア等でJICAの案件には関与したことがありましたが、JICAの最近の注力分野について知識をアップデートする必要性があると考えていました。また、診断士として中小企業支援を行う中で、JICAの民間連携等、国際協力案件に結び付けられないか、様々な講座やイベントに参加し、アイデアや考え方を吸収していました。民間企業と国際協力の間を繋げる**SDGsの情報**は、仕事で必要な時に、自分でばらばらとリサーチして情報を収集し繋げていましたが、今回の受験を通じて、SDGsを取り巻く基本的な仕組みや、**全体の構造を一から学び、頭の整理ができた**らと思っていました。

**Q. どのように試験対策をされましたか？**

**移動時間のすき間時間を活用**して、電車の中で、スマホでWebコースの演習問題を解くことが多かったですね。演習問題は解くと、すぐに解説が表示されるので、細切れのすき間でも進めやすかったです。試験対策としては、最初に、セットになっている模擬試験を受けてみました、1回目60%は取れていたのですが、100%を取りたいと思っていました。演習問題を解く中で、不明なところは、主にインターネットで調べたり、公開レポートを読んだりして、知識を補充しながら、演習問題が100%になるまで2-3回繰り返し解きました。



**岩松 廣行 様**  
**（中小企業診断士）**

**Q. 本Webコース・検定試験で身に付けられた知見をどのように活用されておられますか？また、どのような方にお勧めしたいですか？**

今回、SDGsの内容を基本的なところから勉強できました。SDGsビジネスに関して、支援する中小企業に対して、本質的な内容をベースに**自信をもって説明**できるようになったと思います。またコースの受講を通じて、これまで自分がアンテナを張っていなかったSDGs x 大学連携という内容を知ることができ、**新たな気づきやアイデア**が出せるようになったのも収穫でした。現在、様々なSDGsへの貢献活動を支援している神奈川県等の地方自治体とか、大学を繋いで、SDGsの枠組みの中で、何か新たな取組ができないか、アイデアを構想中です。また、現在JICAの民間連携事業で海外に渡航する機会もあり、本検定で取得した「**国際協力プロフェッショナル検定**」の**ロゴを名刺に付けて**、現地関係機関にも提示できたらと思っています。本コース・検定は、**企業や自治体等を支援する中小企業診断士や、特定の分野の専門家が、国際協力全般の内容を整理するには有効**だと思います。もちろん、これから、国際協力業界でのキャリアを考えられている方にも、基本的な知識を体系的に学べるので、**良い機会**だと思います。

## Q.本検定試験を受験されたきっかけをおしえてください。

2021年秋に経営コンサルタントとして独立開業し、現在は中小企業診断士として、中小企業等の支援を行っています。

独立開業した後、幸運にも、独立行政法人 国際協力機構

（JICA）のアルゼンチンの案件に、専門家として参加させていただく機会を頂きました。その後、本検定試験の情報を聞き、本検定試験は**国際協力の歴史や、政府開発援助（ODA）事業の枠組みを、短期間で学べる点が、非常に魅力的だ**と感じました。**国際協力事業の全体像を学び、自分の役割・位置づけを把握して、さらに貢献できればと考え、本検定試験の受験を決めました。**

## Q.どのように試験対策をされましたか？

事前学習動画は1回、演習問題は3回、模擬試験には2回取り組みました。また、良く知らない用語があった場合には、インターネットで検索して理解を深めるようにしました。

模擬試験を解いた後に、弱点分野がレーダーチャートで表示されましたが、このレーダーチャートが、弱点分野の強化にとっても役に立ちました。弱点分野については、設問ごとに用意されていた**詳しい解説や、参考資料のWebサイトを見て、大枠を把握することで、本番試験への準備をすることができました。**

## Q. 本検定試験を通じてどのような学びを得られましたか？

まず、試験対策Webコースの中で、国際協力の事業に深い知見のある方が講師をしている動画（事前学習動画「国際協力プロフェッショナルの事例紹介」）が良かったです。**国際協力のプロフェッショナルが、現場でどのように活動をしているのか、この講義で理解が進み、自分の中で非常に腹落ちしました。**

## 矢野 仁士様 （中小企業診断士）

また、試験対策Webコースの演習問題と模擬試験を通じて、**自分の知識の不足部分を補完することもできました。例えば、国際協力の歴史や政府開発援助（ODA）事業の枠組みについては、特に学びが多かったです。**また昨今、SDGsがこれだけ盛り上がりを見せているので、本検定試験の試験対策学習を通じて、SDGsについて**しっかり復習できたことも、良かったです。**社会人として必要な知識をたくさんアップデートできたと思います。



## Q. 今後、本検定試験を通じて得た知識を、どのように活用されていますか？

実際に従事していた、アルゼンチンの国際協力プロジェクトの中で、プロジェクトの関係者（JICAの担当者、相手国の中央省庁の役人、相手国企業の社員等）から説明を求められた際に、**自信を持って話すことができるようになり、気持ち的にも余裕が生まれました。本検定試験の受験を通じて、プロジェクトの在り方や、自分の役割をより深く理解できるようになったことが、大きな理由だと思っています。**結果的に、アルゼンチンのプロジェクトは、カウンターパートに非常に満足してもらい、案件を終了することができました。

また、その後、他の国際協力プロジェクトにも、声をかけて頂きました。プロジェクトの専門家を選定するための面接を受けた際には、国際協力の歴史等、国際協力の基本知識を理解した上で、自分の役割を自信を持って説明することができたように思います。その結果、採用が決まり、今はアフリカの案件に参画することができています。**本検定試験に合格後、自分の仕事が、良い方向に向かっているという実感があります。**